

インターバンクの声（2014年11月6日）

昨日のドル円は、東京市場早朝の113円台中盤に始まり、時として30銭以上となる細かいコレクション（価格調整）を幾度もこなしながら、ついにニューヨーク市場では114円台後半まで円安が進んだ。ニューヨーク市場で最も円の買戻し幅が大きくなったのは、10月のISM非製造業景況指数が予想を下回る発表の後だったが、弱い数字を悲観視したというよりも利食いや調整のきっかけを待っていた一部の市場参加者にうまく利用された感が強い。米中間選挙で共和党が上院でも過半数を占めるに至ったことで、もはや100円割れや90円方向への円高に戻ると声高に主張し続けていたストラテジストもその存在を消しているかのようだが、足元で誰もが知りたいのはどこまで円安が進むのかだ。つい先日までは112～115円程度がコンセンサスだったはずだが、今は恐らく120円、いや125円辺りを目途とする見方が大勢かも知れない。このレベルではもう怖くて新たなドル買いはしたくないとするディーラー仲間が多いが、こういった状況は「まだ買える」筈だとして突っ走っている輩も僅かながらいる。

提供：SBIリクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。